

## 街かど人物館



東日本大震災で被害を受けた地域の状況を記録・保存する東北大の活動で、地元消防官OBが活躍している。2年前まで宮城県気仙沼市で消防士をしていた鈴木修さん(62)は、被災地の情報を集める「みちのく・いまをつたえ隊」の一人。被災者の話を聞き取り、録音し、写真を撮る。「津波の危険性を広く皆さんに伝えたい」と話す。

### 被災地の状況記録

### 身近な復興 掘り起こす

2月8日の活動開始から気仙沼市内を走り回っている。知人から始めて芋づる式に対象を広げ、津波の被害や当時の状況を丁寧に取り取る。多いときは1日9軒を回ることも。「家族を亡くしたり家を失ったりした人に、言葉を選んで質問するのが難しい」。消防署に30年以上勤めた経験を生かし、震災直後から毎日、避難所などで働いた。情報収集の仕事を消防署の本部から紹介され、地域防災の役に立ちたいと参加した。

心がけているのは「身近な復興の掘り起こし」。地域の行事や被災者の心境の変化を地道に拾い集める。「取材先」が60歳以上に偏ってしまうところが反省点。若い人たちからも満遍なく話を聞こうとあれこれ工夫する毎日だ。